

令和2月5日（金）

令和2年度 新入児童保護者説明会 挨拶

- 4月に新入学をお迎えになる保護者の皆様、こんにちは。立春を過ぎましたが、空気はまだ冷たいですね。そうした中、本日は、本校の新入児童保護者説明会にお越しいただき、誠にありがとうございます。
- いよいよ入学を間近に控え、緊張感も高まってきたのではないのでしょうか。
- 本日は、入学にむけた心構えや具体的に準備するものをお示ししながら、新しい学校生活へのイメージをお伝えしたいと思います。
- 私からのメッセージは資料の1ページに書いておりますので、あともってお読みください。

- そこで、この場では、これから9年間、学校と御家庭とが、共に手を携えながら、お子様方を健やかな成長へ導くために、お願いといたしますか、一緒に考えていきたいことを2つお話しします。
- それは、「怒る」とことと「叱る」とことの違い、そして「褒める」とことと「認める」とことの違いについてです。

- まず、ひとつめ。「怒る」とことと「叱る」とことについてですが、これはどう違うのでしょうか。
- もちろん、日常生活においては、「怒る」と「叱る」とも大きな違いはありませんので、そこまで神経質に使い分ける必要はありません。
- しかし、子育てをする場合、ちょっと意識をすると、ずいぶん子どもの成長がかわってきます。
- 「怒る」は文字どおり「いかる、腹を立てる」ことです。どちらかという大人目線で、自分の気に入らなかったことを子どもがしでかしたときに、感情的に怒鳴り散らすイメージがありませんか。「うるさい!」「静かにして!」など。
- 一方、「叱る」はどうでしょう。
- 叱るとは「悪いところを^{とが}咎める、^{いまし}戒める」といった感じがあります。つまり、「教え、諭す」というイメージです。
- 保護者のみなさま、一方的に「怒って」ませんか？ きちんと「叱る」ことを意識してみてください。

- では2つめ。「褒める」と「認める」の違い。
- これも、言葉は違いますが、日常生活においては、同じような感覚ではないでしょうか。
- 子どもが何かできた時、「うわー、よくできたね」とほめる。「うわー、よくできたね」と認める。あまり大差ないでしょう。
- でも、ちょっと意識をしてみてください。
- 大人が子どもをほめるとき、一般に大人の基準や水準でほめていないでしょうか。大人の側の基準で、その水準に達した時、ほめるのではないのでしょうか。
- 反対に言えば、その水準に達しなかったら、「もっと頑張りなさい」と叱ることはあっても、「ほめる」ことはあまりしないでしょう。
- それに対して、子どもたちは「認められたい」という願望を元来持っているものです。子どもの基準や水準で「認められたい」と思っているのです。だから、大人の水準に達していなくても、「ほめてほしい」と思うわけです。
- 逆に、自分がさほど努力もしていない、自分の功績でもないことを、やみくもに「えらいね〜」「よくできたね〜」と褒められても、さほどうれしくなく、励みにもならないかもしれません。
- 表面的にお世辞を言ったり、ちやほやしたりしても、子どもにはその言葉は届いていないものです。

- 私たち大人は、その子の目線で「叱ったり」、「認めたり」することが大事です。
- そういう言葉のシャワーをたくさん受けた子どもは、「自己肯定感（ありのままの自分を受け止める感覚）」や「自己有用感（自分は人の役に立っているんだという感覚）」を強く感じることができ、「学ぶ意欲や態度」がとても高い、ひいては高い学力を身につけることができます。

- 「叱る」と「認める」。
- 保護者の皆様、どうか、このことを意識しながら、一緒に子どもたちの成長を支えていきましょう。9年間、どうぞよろしくお願いします。